

2019年12月20日
凸版印刷株式会社

凸版印刷、「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元を
実物とデジタルで関東初公開！

「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元屏風と
千田嘉博教授の協力によるETOKI「大坂冬の陣図屏風」を「お城 EXPO 2019」で初公開

凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下 凸版印刷)は、東京国立博物館が所蔵し、模本(模写)と考えられている「大坂冬の陣図屏風」(※1)をもとに、色鮮やかで豪華絢爛な六曲一双の「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元(以下、「復元冬の陣図屏風」)を2019年7月に制作しました。

このたび、その制作時に作成したデータを用いて「ETOKI システム(※2)」を活用し、奈良大学文学部 千田 嘉博教授が屏風の読み解きを行ったコンテンツを制作、「復元冬の陣図屏風」の実物とともにパシフィコ横浜で開催される「お城 EXPO 2019」(プレミア前夜祭 2019年12月20日(金)、本会期 2019年12月21日(土)、22日(日))にて関東初公開します。



「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元 制作:凸版印刷株式会社



千田 嘉博教授の読み解きによる ETOKI システム「大坂冬の陣図屏風」

■ ETOKI システム「大坂冬の陣図屏風」について

凸版印刷は、屏風絵や絵画などの絵画作品を題材に、専門家だけではなく歴史や文化財ファンも含めた多くの人々が、自ら細部まで観察しながら読み解き(絵解き)を楽しんだり、コメントや関連情報をシェアすることができるようにする文化財デジタルアーカイブの活用システム「ETOKI システム」の開発を推進しています。

今回、ETOKI システムを活用し、「復元冬の陣図屏風」の制作時に作成したデータを用いてコンテンツを開発。「復元冬の陣図屏風」の監修者でもある奈良大学文学部 千田 嘉博教授による城郭考古学の観点から読み解いたコメントと共に、彩色復元図をタッチパネル端末で自由に閲覧できるコンテンツです。お城 EXPO の特設会場で「復元冬の陣図屏風」の実物と本コンテンツで屏風の隅々まで楽しむことができます。

■ 「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元について

凸版印刷は、これまでに培った文化財のデジタル復元の知見を活かし、六曲一双屏風のデジタル彩色プロセスを構築。専門家による学術的調査と監修を得ながら模本を読み解くことで、浮かび上がる姿を想定し、デジタルによる彩色と手作業による仕上げによって 2019 年 7 月に復元しました。「お城 EXPO2019」にて関東初公開します。

「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元

- ・図像部： インクジェットプリント 金箔金銀泥
 - ・サイズ： 図像部 各約 2986mm×1656mm
 - ・制作： 凸版印刷株式会社
 - ・監修： 千田 嘉博(奈良大学文学部教授)、東京藝術大学、徳川美術館、佐多 芳彦(立正大学文学部教授)
 - ・協力： 大阪城天守閣、京都市立芸術大学芸術資料館、東京国立博物館
- ※JSPS 科研費 JP17102001(立正大学)の助成を受けた研究成果を活用しています。

■ 「お城 EXPO2019」および「大坂冬の陣図屏風」 デジタル想定復元展示について

名称	お城 EXPO 2019
主催	お城 EXPO 実行委員会 (公益財団法人日本城郭協会、城びと<株式会社東北新社>、株式会社ムラヤマ、パシフィコ横浜)
開催場所	パシフィコ横浜会議センター(神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1)
「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元展示	・「大坂冬の陣図屏風」デジタル想定復元および ETOKI システム プレミア前夜祭： 会議センター 1F メインホール 入口前 本会期： 会議センター 4F 企画展示スペース
開催日時	プレミア前夜祭： 2019 年 12 月 20 日(金) 17:00~20:30 (途中入城可) 本会期： 2019 年 12 月 21 日(土)・22 日(日) 9:00~19:30(最終日は 17:30 まで) ※最終入城 30 分前まで

イベントの詳細は「お城 EXPO2019」WEB サイトにてご覧ください。 <http://www.shiroexpo.jp>

※1 「大坂冬の陣図屏風」

「大坂冬の陣図屏風」は、慶長 19 年(1614 年)の徳川幕府と豊臣家との間で行われた合戦、大坂冬の陣を描いたものです。原本の所在は不明で、東京国立博物館が所蔵する本屏風が唯一その戦いの様子を詳細に現在に伝えています。屏風には、大坂冬の陣の陣立てや豊臣期の大坂城および戦場の様子が詳細に描かれており、歴史資料としてもとても貴重なものです。

※2 ETOKI システム

本システムは、2019 年 9 月に開催された「第 25 回 ICOM(国際博物館会議)京都大会 2019」で発表した国立大学法人京都大学との共同研究に基づくコンセプトに基づき、凸版印刷が開発しました。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上